

2007年度春季大会の報告

2007年度春季大会は、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）を会場として2007年5月13日（日）～16日（水）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は815名（内訳は前納登録者490名、当日受付者325名）であった。

2日目午後には、国立オリンピック記念青少年総合センター大ホールにおいて、日本気象学会125周年記念式典が行われた。記念式典に続いて総会が開かれ、杉 正人氏と佐藤正樹・富田浩文両氏に日本気象学会賞が、石 廣玉氏と故木田秀次氏に藤原賞が授与された。総会終了後、3組の受賞者による記念講演と松野太郎氏による故木田秀次氏の業績の紹介が行われた。同会場では、3日目午後には、海外から Guy Brasseur 氏 (NCAR) と Brian Golding 氏 (Met Office) を

迎えて、日本気象学会125周年記念国際シンポジウム「次世代の気象科学に期待すること」が開催された。

今回はポスター及び口頭発表による一般講演と特定のテーマに基づいてコンペーターが編成する3つの専門分科会が行われた。一般講演の発表申込み件数は348件（内訳はポスターが181件、口頭発表が167件）、分科会は39件で計387件であった。

会期中およびその前日には、教育と普及委員会主催による公開講演会を含めて、個別のテーマによる研究会が8件開かれた。

最後に、今大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂いた東京大学気候システム研究センターの皆様へ深く感謝の意を表します。

2007年6月 講演企画委員会